

No.95

明日への扉

女性の視点を 防災に活かして

ふくおか あやの
福岡 綾乃 さん



鹿屋市消防団女性消防隊（通称「ローズ隊」）には様々な職業の13人が在籍（平成29年10月1日現在）。主に高齢者宅訪問や火災予防啓発活動を行うほか、災害時には後方支援の任務に当たる。10代～50代の幅広い年代の女性が活躍中。



平成3年鹿屋市生まれ。鹿児島純心女子高校、鹿児島純心女子短期大学を卒業後、自衛隊での県外勤務を経て帰鹿。平成27年1月に消防団に入団。平成28年7月からは新設された女性消防隊の副隊長として活動している。普段は大隅肝属地区消防組合でパート勤務。（26歳）

まさか自分が女性消防隊として活動するとは思っていませんでした。でも以前から「困っている人を助けたい」との気持ちを持っていたように思います。

消防団に入った直接のきっかけは、当時勤めていた職場の方から声をかけてもらったこと。平成27年1月に申良の分団に入団し、毎月1日の早朝訓練や火災予防啓発のアナウンス、操法訓練の手伝いなどを経験しました。女性団員がまだ珍しかった当時、朝5時半から放水訓練や機械器具点検などしていると、地域の方からよく声をかけていただいたのを覚えています。

昨年7月、女性消防団員による「女性消防隊」（消防団本部付）が鹿屋市で結成されることになり、私を含め11人が入隊しました。結成以降、毎月11人の定例会や視察研修などを通して、研修や訓練に励んでいます。

女性消防隊の現在の役割は、女性の細やかなコミュニケーション力を活かして地域の防災力アップに努めること。一人暮らしの高齢者宅の訪問活動では、2人ペアで巡回し、「体調は大丈夫ですか」「消火器は置いてありますか」などと声をかけていきます。隊員が女性だと安心されるのか、皆さん色々な話をしてくれま

ります。つい話し込んでしまうこともあります。把握していなかった一人暮らしの方の情報を教えてもらうこともあり、より深く話を聞ける女性隊員ならではのメリットを感じています。

全国で増加している女性消防団員。平成30年度には「県女性消防団員研修会」が鹿屋市で開催される予定です。また平成31年度には、神奈川県で行われる「全国女性消防操法大会」に、県を代表して鹿屋市の女性消防団員が出場することが決まりました。女性の操法は小型ポンプを使いますが、まだ経験が浅いため、これから他の隊員たちと訓練を重ねていきます。出場するには本気で臨みたいです。

私自身、消防の活動を始めて3年目になりますが、地域の人たちと知り合い、密着して色々な経験ができることに、やりがいを感じています。また、家族や職場の理解があつて、この活動ができることにも感謝しています。女性消防隊副隊長という役職をプレッシャーに思うこともありますが、市内で活躍する経験豊富な女性団員から多くを学び、これから成長していきたいです。

最後に、女性消防隊では隊員を募集しています。入隊するに当たって、特別な知識や技能は必要ありません。必要なのは「やる気と根気」。興味のある方は、地域のために一緒に活動しませんか。